

安祥城址 (安城城跡)

家康公



家康公ゆかりの地 PR ブック

天下への始まりの地

実は 大きく関係している
あんじょう
家康公と安城市

安城

contents

- P2 「安城」をめぐる物語から始まる「家康公」のサクセスストーリー
- P3 家康公や家康公と関わりのある人物のゆかりの地を紹介
- P4 徳川家康ゆかりの「安城」をめぐる
(雑誌『歴史人』2月号(2023年)掲載記事)
安城と徳川家康と三河一向一揆
安城ゆかりの三河武士
- P8 家康公 ゆかりの地マップ

本證寺

雑誌『歴史人』2月号(2023年)に
「家康公ゆかりの地」として
紹介されました!

家康公の天下取りは安城にも大きく関わっています。

家康公や家康公と関わりのある人物のゆかりの地を紹介



各スポットの詳細はこちら

「安城」をめぐる物語から始まる「家康公」のサクセスストーリー



本證寺

安祥城址 (安城城跡)



家康公の先祖は安城城を居城とした「安城松平家」

ゆかりの地・安祥城址など

「安城松平家」はもともと松平氏の一家の一つに過ぎなかったものの、松平一族の中心となり、家康公の祖父である清康公の時代には三河平定に乗り出していきます。

その流れを受けた家康公が清康公の悲願であった三河平定を達成し、その後天下人となったのです。

「安城松平家」が安城城に居城していた時から臣従していた家臣は安城譜代と呼ばれ、家康公からの信頼も厚く、徳川家臣団の中心として天下取りを支えたとされています。



家康公にとっての三大危機の一つ、「三河一向一揆」の舞台は安城

ゆかりの地・本證寺など

安城市にある本證寺が「三河一向一揆」の拠点の一つであったとされています。

家康公が西三河の制圧を目指していた1563年頃、家康公の家臣が当時の浄土真宗本願寺派の寺院から兵糧米を強引に徴収したことから三河一向一揆が始まったと言われています。

若き家康公の家臣には数多くの門徒武士がいたため、一揆方に加勢する者も多く、家臣団を二分する事態となりました。

家康公はこれを制することで、家臣団を再びまとめ上げ、ここから天下取りへのストーリーが始まったのです。

安城松平家の居城

安祥城址 (安城城跡) 裏表紙 MAP 1

- 徳川家康、松平清康など
- 安城市安城町赤塚 2
- 9:00 ~ 17:00
- 安城市歴史博物館の駐車場
- 名鉄南安城駅から徒歩 15 分ほか
- ※安城市歴史博物館の休業日は月曜（祝日除く）、年末年始

家康公にとっても大事な神社

大岡白山神社 裏表紙 MAP 4

- 徳川家康、松平清康
- 安城市大岡町宮東 43
- 安城市東部公民館の駐車場
- 名鉄バス岡崎安城線「大岡」停留所から徒歩 5 分ほか

徳川四天王・本多忠勝の父の戦死地

本多忠高墓碑 裏表紙 MAP 7

- 本多忠高、織田信広
- 安城市安城町赤塚 4-1
- 安城市歴史博物館の駐車場
- 名鉄南安城駅から徒歩 15 分ほか

本證寺・空誓上人を支えた寺

円光寺 裏表紙 MAP 10

- 徳川家康、順正
- 安城市桜井町中開道 30
- 9:00 ~ 17:00
- あり
- あんくるバス桜井線「円光寺」停留所から徒歩 1 分ほか

安城譜代石川家ゆかりの城

小川城址 裏表紙 MAP 13

- 石川政康、石川康長、石川春重
- 安城市小川町場の丘 13
- なし
- あんくるバス桜井線「小川」停留所から徒歩 5 分ほか

安城松平家と関わりを持つ謎多き城

木戸城址 裏表紙 MAP 16

- 松平信光、松平親忠
- 安城市木戸町東屋敷
- なし
- あんくるバス桜井線「木戸」停留所から徒歩 5 分

若き家康公と戦った寺

本證寺 裏表紙 MAP 2

- 徳川家康、空誓上人、順正など
- 安城市野寺町野寺 26
- 5:00 ~ 17:00
- 南西側の敷地
- ※土日は非常に混雑が予想されます
- 名鉄南桜井駅から徒歩 20 分ほか

安城合戦のために造られた城

山崎城址 裏表紙 MAP 5

- 松平信孝
- 安城市山崎町城跡 102
- 山崎神明社の駐車場
- あんくるバス安祥線「山崎」停留所から徒歩 10 分

安城を守るために戦った者たちの塚①

富士塚 裏表紙 MAP 8

- 松平信康、松平康忠、織田信秀など
- 安城市浜富町 6-8
- 安城コロナワールドの駐車場
- J R 安城駅から徒歩 20 分、名鉄南安城駅から徒歩 15 分ほか

空誓上人の身代わりとなった順正が眠る地

安政古戦場 裏表紙 MAP 11

- 徳川家康、順正
- 安城市小川町北加美
- 小川町内会事務所の駐車場 (約 10 台)
- あんくるバス桜井線「小川」停留所から徒歩 5 分ほか

十四松平の一つ、藤井松平家の居城

藤井城址 裏表紙 MAP 14

- 松平利長、松平信一
- 安城市藤井町本郷 128
- なし
- あんくるバス桜井線「藤井東」停留所から徒歩 5 分

安城譜代石川家ゆかりの地

三河石川一族発祥の地 裏表紙 MAP 17

- 石川数正、石川政康、石川康長など
- 安城市小川町志茂 339
- 小川町内会事務所の駐車場
- あんくるバス停留所「小川」から徒歩 5 分ほか

家康公に仕えた「石川丈山」の出生地

丈山苑 (石川丈山邸址) 裏表紙 MAP 3

- 徳川家康、石川丈山
- 安城市和泉町中本郷 180-1
- 9:00 ~ 17:00
- 月曜日（祝日除く）、年末年始
- あり
- あんくるバス南都線「和泉丈山苑」停留所から徒歩 10 分

家康公の父を救った「本多忠豊」の戦死地

本多忠豊墓碑 裏表紙 MAP 6

- 本多忠豊、松平広忠
- 安城市安城町赤塚 86
- 安城市歴史博物館の駐車場
- 名鉄南安城駅から徒歩 15 分ほか

安城を守るために戦った者たちの塚②

東条塚 裏表紙 MAP 9

- 松平信康、松平康忠、織田信秀、水野忠政
- 安城市安城町多門
- 多門霊園の駐車場
- あんくるバス安祥線・桜井線「安祥福祉センター」バス停から徒歩 3 分

竹千代が喉を潤した井戸

筒井泉跡 裏表紙 MAP 12

- 徳川家康
- 安城市安城町横町
- 安城市歴史博物館の駐車場
- あんくるバス安祥線「歴史博物館」停留所から徒歩 3 分

清康公と争った桜井松平家の居城

桜井城址 裏表紙 MAP 15

- 松平親房、松平信定、松平清定など
- 安城市桜井町城原 1-93
- あり
- あんくるバス桜井線「城山公園」停留所から徒歩 5 分ほか

江戸時代の大名・内藤一族ゆかりの寺

誓願寺 裏表紙 MAP 18

- 内藤重清、内藤清長
- 安城市小川町姫 149
- 9:00 ~ 17:00
- あり
- 名鉄桜井駅から徒歩 15 分ほか

アイコン説明 人 ゆかりの人物 住 住所 開 見学可能時間 休 定休日 駐 駐車場 7 アクセス

「あんじょう家康ガイド」をご利用ください

安祥城址 (安城城跡)、本證寺の 2 施設を訪れる際に、是非ご利用いただきたいのが「あんじょう家康ガイド」です。

令和 5 年 1 月 ~ 12 月の土日祝日 (9 時 ~ 16 時) は、安城市歴史博物館エントランス及び本證寺境内に常駐しています。希望者にガイドさせていただきます。

※ 5 名以上で利用される場合は、事前予約をしていただくことを推奨しています。※ 平日の利用を希望される場合は、事前予約が必要です。(原則 5 名以上の利用)



事前予約に関する情報はこちら

徳川家康ゆかりの「安城」とめぐる

司馬遼太郎いわく「安城」という地は「徳川家」にあつては、これはただの地名ではなく、名譽と自負心と忠誠心を象徴する神聖語であるという。

家康以前の松平家と 安城の歩みをひも解く

松平氏は、元々は加茂郡の松平郷（豊田市）を本拠としていたが、松平信光の時代に岩津城（岡崎市）に居城を移す。さらに信光は、安城城（安城市）や岡崎城（現在の岡崎城とは別城）などを攻略すると、自らの子らを城主とした。こうして俗に

「十四松平」とよばれる一族が西三河一円に広がっていったのである。信光が安城城を攻略した時期は不明だが、応仁・文明の乱による混乱に乗じたであろう。信光は息子の親忠を安城城の城主とし、その後、親忠の跡は長忠・信忠・清康と続く。清康は同族である岡崎松平氏の支城であった山中城（岡崎市）を攻略すると、その本城・岡崎城をも奪取した。そして、松平一族を含む国衆を次々と降していき、三河をほぼ統一していったのである。さらには、尾張に侵攻し織田信秀と対峙。しかし天文4年（1535）には尾張の守山で家臣の阿部正豊に斬殺されてしまう。このとき清康は、まだ25歳。清康の死により子の広忠が跡を継いだものの、わずか10歳であり、岡崎城の松平氏の勢いは急落。天文9年には、織田信秀が三河に侵攻してきたため、安城城も織田氏によって奪

われてしまった。自力での奪還の不可を悟った広忠は、駿河の今川義元に支援を要請。引き換えに幼少の家康を今川氏へ人質として差し出すこととなったのだ。

天文18年に広忠が没すると、今川義元はすぐさま軍勢を三河に派遣し、安城城を奪還した。こうした安城城をめぐる一連の争奪戦を、安城合戦という。この安城合戦のなかで、のちに「徳川四天王」に数えられ、安城ゆかりの武将・本多忠勝の父・忠高らが討ち死に。安城という地は、松平氏にとっては織田氏の侵攻を食い止める防波堤、織田氏にとっては三河進出の橋頭堡として、どちらも譲れない要衝だったのである。

永禄3年（1560）、桶狭間の戦いで今川義元が敗死すると、家康

は今川氏から独立を果たし、尾張の織田信長との間に清洲同盟を結ぶ。これにより安城城は、対織田氏の前線基地としての意味がなくなり、廃城になった。もともと松平一族の惣領は岩津城の松平家であり、安城城の松平家は庶流でしかない。しかし、長忠の代に惣領となり、清康の代に躍進。安城松平家は三河有数の勢力へと成長し、その安城松平家を継いだ家康が天下人へと昇りつめたのだ。「安城」という地がなければ、江戸幕府も誕生しなかったのではないのか。

徳川家康

若き日、19歳ごろの家康の勇ましい姿。刀剣ワールド財団蔵



※東海道新幹線「三河安城駅」から東海道本線「三河安城駅」まで徒歩2分



安城城 愛知県安城市安城町赤塚1
現在の安城址。徳川家臣団最古参の「三河安城之七御普代」の発祥の地で、城内には大乗寺や東尾八幡社などが建つ。



安城城の古城図
江戸時代に書かれた安城城絵図。当時は池に囲まれ、しっかりとした堀が構築されていた。
広島市立中央図書館（浅野文庫）蔵



歴史人

のちの天下人 徳川家康を苦しめた安城の人々

安城と徳川家康と 三河一向一揆

家康三大危機のひとつ 己の信念のため戦った安城

桶狭間の戦い後、岡崎城で自立した徳川家康は、今川義元の跡を継いだ今川氏真とは手を切り、三河の平定に乗り出した。しかし、その家康の前に立ちはだかったのは、今川氏真に従う三河の国衆だけではない。永禄6年、大規模な一向一揆が勃発してしまつたのである。

一向一揆とは、一向宗と称された浄土真宗本願寺派の門徒によって引き起こされた武装蜂起のことである。三河では、鎌倉時代から矢作川の中下流域を中心に浄土真宗高田派の布教が進んでいた。しかし、室町時代になって本願寺中興の祖とされる8世・蓮如によって土呂の本宗寺（岡崎市）が創建されたからは、浄土真宗本願寺派の教線が急速に拡大していく。そして戦国時代には、野寺の本證寺（安城市）・佐々木の上宮寺（岡崎市）・針崎の勝鬘寺（岡崎市）といった本願寺派寺院が「三河三か寺」と称されて勢力を誇り、それぞれ100か寺以上の末寺を抱える一大勢力となっていた。一揆の原因は、「三河物語」によれば、家康の家臣・酒

安城合戦ゆかりの地を巡る

松平軍と今川軍と織田軍が繰り広げた激戦

「安城合戦」とは織田信長の父・信秀と家康の父・松平広忠が安城城を奪い合い繰り広げられた戦いの総称である。天文9年（1540）から天文18年までの約10年間に3度にわたって激戦が繰り広げられ、さらには松平側に今川も加勢。結果、松平・今川勢が安城城を奪還。安城という地が、要衝として松平・織田・今川が入り乱れ、誰もがほしがった地であったことを物語った戦いであった。



本多忠高墓碑

徳川四天王の本多忠勝の父の墓。安城合戦にて討死した場所に子孫によって立てられた。愛知県安城市安城町赤塚4-1



山崎城址

松平信孝によって築城。安城合戦では織田方の城として岡崎城攻撃の拠点となった。愛知県安城市山崎町城跡36

入の特権が与えられていた。これは、守護の役人が徴税や謀反人の追捕のために寺領へ入ることを禁止する特権であり、寺内町は、いわば独立都市となっていたのである。たしかに、特権を否定された本願寺派の寺院が不満を抱くのは当然だろう。とはいえ、これを認め続けられ、家康が三河を一元的に支配することはできなかった。本願寺派は、寺院とはいえ、全国各地に広がる、実質的にはひとつの権力であり、大名権力との衝突は避けられなかったのである。

三河一向一揆と戦う家康
日本略史図 徳川家康
自ら鎧をまとい矢の降りしきる中で戦う家康の姿の絵は珍しい。古美術りみや



三河後風土記之内 大樹寺御難戦之図

三河へ侵攻した織田信長軍に対して大樹寺の僧侶とともに戦う家康。一向一揆勃発以前、大きな戦力をもつ寺院は強力な味方であり、ともに三河のため戦っていた。刀剣ワールド財団蔵



三河一向一揆という戦いの果てに

家康家臣団も敵味方に二分 三河の覇権をかけた一大決戦



本證寺 三河一向一揆の拠点になった本證寺。現在でも、城郭伽藍としての面影を見ることができ、鼓楼や水濠が残っている。国指定重要文化財の聖徳太子絵伝など数々の寺宝をもち、古来からの歴史を伝える。
愛知県安城市野寺町野寺26

一向一揆は、農民によって組織されたと考えられがちだが、武士も参加している。家康の家臣のなかにも門徒がおり、石川数正・天野康景・柴田康忠・本多重次・本多忠勝らのように浄土宗に改宗して家康に味方した家臣がいる一方、本多正信・本多正重・渡辺守綱・蜂屋貞次・夏目吉信らのように、浄土真宗からの改宗を拒み、一向一揆に味方した家臣もいた。そればかりか、一向一揆は東条城（西尾市）の吉良義昭や荒川城（西尾市）の荒川義広にも支援を要請。吉良義昭が今川氏真に帰属しており、今川氏から離反した家康とは対立していたためである。

一向一揆の拠点・寺内町は、寺院を中心にして町が形成されているだけでなく、堀や土塁が構築され、堅固な城郭寺院として「要塞」の顔も持ち合わせていた。家康も簡単に攻略することができなかつたのである。戦いの経過については、当時の史料が残されていないため、詳しいことはわかっていない。ただ、しばらくは対峙が続いていたようで、動きがあったのは、翌永禄7年に入ったころのことだった。正月には、大久保忠俊らが守る上和田砦（岡崎市）に一向一揆勢が押し寄せ、家康も救援に駆け付けたが、このときは、家康自身が銃弾を2発受けるほどの激戦であったという。その後も一進一退の攻防が続くなか、2月には一向一揆勢が岡崎城にも攻め寄せた。これに対し、家康が一向一揆勢を押し戻すと、馬頭原で合戦となる。この戦いで家康は辛くも勝利を収め、以降は次第に優位にたつていく。

そうしたなか、一向一揆側を代表して蜂屋貞次らが家康に和睦を求めた。条件は一揆参加者の赦免と守護使不入特権の継続だった。家康は、厳正な処分を考えていたようだが、大久保忠俊らの進言により一揆側の条件を飲み、和睦したのだった。とはいえ、信仰とは関わりなく一向一揆を支援した酒井忠尚・吉良義昭・荒川義広を赦免することはなかった。吉良義昭は上方に逃亡し、荒川義広も三河を離れている。酒井忠尚にいたっては、その後も抵抗を続けていたが、駿河に出兵した。また、本願寺派の存続を認めた家康だったが、その条件として改宗を迫っている。さらに、改宗に応じなかつたとの理由で家康は、国内の本願寺派の寺院・道場をすべて破却するとともに、浄土真宗本願寺派の信仰をも禁止してしまった。

【三河一向一揆 年表】

| | |
|----------------|--|
| 不明 | 松平広忠の代、本證寺、上宮寺、勝鬘寺の「三河三か寺」に守護使不入の特権が与えられる。 |
| 永禄5年 (1562) | 本證寺に松平家臣・酒井正親が無法者を捕縛するため侵入。守護使不入の特権を侵害したと判断される。（『三河物語』より） |
| 永禄6年 (1563) | 三河国統一を目指す徳川家康との対立が深まり、正月に一揆が勃発。（『三河物語』より） 本證寺第10代・空誓は上宮寺や勝鬘寺とともに本願寺門徒へ檄を飛ばし、菅沼氏の砦を襲撃。 安城松平家の麾下にあった家臣の中には信者もあり、家中は二分。さらに本願寺勢力に吉良氏などの三河の有力豪族や駿河・今川氏の残党なども加わった。 |
| 永禄7年 (1564) | 一向衆により本拠・岡崎城へ攻め寄せられ、家内の統制もままならない家康は人生最大の危機に瀕する。 三河一向一揆最大の戦となった馬頭原合戦にて、家康軍が勝利。 和睦となり、一揆は解体。有力豪族たちは三河から追放され、家康の三河平定への決定打となった。 |

【三河一向一揆側で家康に敵対した家臣】

| | |
|------|--|
| 本多正信 | 榊原清政 |
| 本多正重 | 鳥居忠広 |
| 渡辺守綱 | 石川康正 |
| 蜂屋貞次 | のちに「徳川十六神将」に名を連ねる忠臣も一向一揆に味方。戦後、本多正重、渡辺守綱、夏目吉信をはじめ、赦免される者もいた。 |
| 夏目吉信 | |
| 内藤清長 | |
| 加藤教明 | |



上宮寺絵伝

一向衆と武士が戦う姿が描かれた貴重な絵伝。戦後、寺院は破却、坊主衆は追放となり、三河には本願寺系の寺・道場が失われたという。

上宮寺蔵・岡崎市美術館提供

徳川家臣団の中心となり家康を大名・旗本として支えた

安城ゆかりの三河武士

愚直な安城武士たちの結束力とその強さ

主家に対し、代々臣従してきた家臣の家を譜代という。家康の場合、関ヶ原の戦い前後までに臣従した家臣を譜代と呼んでいる。ただし、臣

従した時期には隔たりがあり、なかでも家康が三河にいたころから臣従していた家臣を三河譜代という。これをさらに細かく分類すると、大久保彦左衛門の著した『三河物語』によれば、安城譜代・山中譜代・岡崎譜代に分かれるのだという。要するに、松平氏が安城城を本拠にしていたころに臣従していた家臣が安城譜代、その後、山中城を攻略したころに臣従した家臣が山中譜代、岡崎城に拠点を移してから臣従した家臣が岡崎譜代ということになる。

三河譜代としてはいづれにも違いはないのだが、そのなかでも、安城譜代は最古参の家臣ということで別格とみなされていたらしい。

ちなみに、この安城譜代とされているのは、徳川四天王に列される酒井氏、本多氏をはじめ、石川氏・大久保氏・内藤氏・阿部氏・青山氏・植村氏・平岩氏・成瀬氏・渡辺氏などである。

徳川家康

遺訓のなかで「心に欲が起きたときは苦しかった時を思い出すことだ」と語る。三河から苦勞を重ね天下人となった偉人の重い言葉である。刀剣ワールド財団蔵



安城市と徳川家康ゆかりの地

丈山苑

安城生まれで江戸初期に活躍した武士・文化人として知られる石川丈山の生誕地を整備し、和風庭園と書院を配した「丈山苑」。丈山は徳川家康の近侍として信頼を寄せられた武士であったが、隠棲後には文化人としても才能発揮。京に建てた詩仙堂などはこの時代の代表的な建物として評価されている。丈山苑の唐様庭園、蓬萊庭園、回遊式池泉庭園は「本当の静けさ」を醸し、風雅を楽しむことができる。

愛知県安城市和泉町中本郷180-1

大岡白山神社



愛知県安城市大岡町宮東43

社殿は天文2年（1533）、徳川家康の祖父・清康によって建立された。清康に従った家臣団とその家族が、出陣に際して、祈願したと伝えられる松平氏ゆかりの神社である。天文9年に織田軍の兵火により焼失してしまつたが、永禄10年（1567）、家康によって再建され、現在は安城最古の建造物となっている（写真の社殿）。慶長9年（1604）に家康に社領138石を寄進され、安城の歴史を今に伝える神社としてそびえる。

東照宮十六善神之肖像連座の図

徳川十六神将の絵。ここには酒井忠次や蜂屋貞次など安城ゆかりの武将がおり、いかに長きにわたり家康を支え続けたかを物語っている。刀剣ワールド財団蔵



本多正信

家康の名参謀として知られる正信は安城出身とされ、三河時代から支える忠臣である。加賀本多博物館蔵



大久保彦左衛門

幕臣として徳川3代を支えた彦左衛門は『わが家は安城以来の旗本』を口癖としていたという。国立国会図書館蔵



家康公ゆかりの地 MAP



愛知県

安城市
Close-up

1 ~ 18

安城市内にある家康公及び家康公に関する人物のゆかりの地

- 名所旧跡
- 公園・公共施設



観光情報も含めたウェブMAPはこちら



安城お立ち寄りスポット

安城産業文化公園デンパーク
四季折々のガーデンと自然のやさしさに包まれる



詳細情報はこちら

安城市歴史博物館
安城市の文化・歴史を学べる



詳細情報はこちら

まだまだあります安城の観光スポット
安城市観光協会ホームページをご覧ください。



旅の思い出に、安城の土産品
安城市観光協会認定土産品はホームページをご覧ください。



安城市観光案内所
KEYPORT (JR安城駅構内)
お気軽にお立ち寄りください。
①10:00~20:00 ②0566-77-5711

